

第7回「アスマラのインフラ」

今回はアスマラのインフラ事情について書きます。日本とは大分様子が違います。

3ヶ月ほどアスマラに暮らしていますが、来た当初は日本の生活は本当に便利だと感じました。今でもそれに変わりはないのですが、アスマラでの生活に慣れてきたというのも事実です。それでも、これだけは皆さんに紹介したいという話題を2 - 3お届けします。まず基礎インフラ、電気や水道です。電気はアスマラ市内ならほとんどの家庭に通じています。街灯も特に市の中心部ではきちんと整備されています。ただ、短時間なものがほとんどですが停電はけっこうあります。僕のパソコンの内臓バッテリーは機能していないので、仕事中の停電は困ります(しょっちゅう文書保存をしています)。

電気が止まるのはよしとしても、水が止まるのは本当に困ります。料理、シャワーなどをはじめ、何もかもが不可能になります。最近、僕の住んでいる住宅地の水道管敷設、交換が行われ、何の告知もなしに水が1ヶ月出ませんでした。それでも夜中には鉛筆くらいの細さでちょろちょろと出るときもたまにあったので、ドラム缶に貯められるだけ貯めて大切に使いました。各家庭には貯水用のドラム缶が必ず2 - 3本あり、常に水を張って置くようにしていますが、ついに水が完全に止まるとバケツなどを持って水が出る地域にいる友人や親戚の家に向かう人をよく見かけました。飲料水は商店で売っているので困りませんでした。シャワーに入れなくなったため、僕は職場のシャワーを使っていました。

もう一つの事例は、インターネットです。一言で言って「遅い」です。一つのページを開くのに、クリックしてから5分くらいかかることもしばしばです。インターネットサービスプロバイダーも1つしかないのも、そこがダウンすれば街中のインターネットが止まります(首都アスマラにしかプロバイダーが無いので、正しくは国中ですが)。一度止まれば場所によって2 - 3日止まります。インターネットはスピードが速ければ非常に便利なものですが、遅ければイライラの元になります、慣れましたが。それでも朝9時くらいまでと夜10時過ぎには日本で遅いモデムを使ってインターネットをしているくらいのスピードになります。

というわけで少し愚痴っぽくなりましたが、日本の生活が便利だとすれば、インフラの不完全なアスマラの生活はとても不便だといえます。ただ、僕自身、水を本当に大切に使うようになったことは確かです。「湯水のように使う」という表現のある日本ですが、これはアスマラには当てはまりません。

次回は、アスマラでの生活をいくつかの異なる視点から書きます。

(森下義臣)



水道管敷設工事(手作業)